

質問

子育て世帯給付金に上乗せする考えは

村長

現在のところ考えていない



【伊藤秀明議員】

今後の農業施策について

伊藤議員

後継者問題の施策

- ①農業法人等育成の考えは
- ②今後の担い手確保の施策
- ③機械の更新、導入に村独自の補助の考えは
- ④村産米を米飯給食に利用できないか
- ⑤コロナ対策で土地改良区賦課金助成の考えは
- ⑥農協からの米価下落に対する考え方

する緊急要望に対する対応は野菜集出荷施設のこれまでとこれからの利用見込みは

村長

①国県のさまざまな制度の周知に努め、規模拡大や複合経営を促したい。

②省コスト化、高収益作物との複合経営の環境整備を整える。新規就農者の研修制度を続ける。

③国県の補助制度を活用願いたい。

④産地の米を産地の学校に届けているが、安全性を考慮し総合的に判断している。

⑤農業はコロナによる減収の算出が難しい。賦課金は土地改良区で検討いただきたい。

⑥要望内容は国県へ要望したい。

⑦野菜集出荷施設のこれまでとこれからの利用見込みは

新型コロナウイルス対策について

伊藤議員

ワクチンの3回目接種や経済対策の対応は

- ①3回目接種時期、間隔、
- ②対象者、開始と終了時期、ワクチンの製薬会社は
- ③接種の周知等方法、順序、会場、送迎は
- ④2回目までの接種状況、3回目接種予定者数、5ヶ月の算出が難しい。賦課金は11歳と未接種者への対応は
- ⑤子育て世帯等給付金に村上乗せする考えは
- ⑥マイナカード取得の奨励

高齢者対策について

伊藤議員

自立した日常生活を営むためには。

- ①診療所の運営は
- ②こあにカーの無償化はできないか
- ③敬老会は地域ごとに開催できないか

はできないか
⑥PCR検査の無償化と独自検査は
⑧力月を開けて、18歳以上の2回接種者に集団接種する。ファイザー社製とモデルナ社製を使用する。

②前回同様に行う。
③18歳以上の2回接種率は91%、3回目は800人を想定している。5歳～11歳までは2月以降との情報がある。未接種者は隨時接種できる。
④考えていない。
⑤引き続きPRに努め、取得手続きの手伝いをする。

⑥近隣町村の動向を見て調査検討する。
⑦今定例議会に指定管理者の指定を上程している。

村長

①安心で持続可能な医療体制のため経営努力を

する。来年度の歯科診療は週5日から週2日で関係機関と協議している。
②無料化は一部の村民のみが恩恵を受ける懸念があり、どのような支援ができるか検討する。

③対象者が減少し続けている。現会場に余裕があり、今まで通り行いたい。来年こそは実施できることを期待している。
④現在ある施設を使用してもらいたい。
⑤指定管理の募集を予定しており、無償では経営に影響がある。

⑥個人自家用車への助成は法律に抵触する恐れがある。
⑦管理費等の收支を考えた場合、減額は厳しい。

質問

我が村の観光発展は

村長



【萩野芳紀議員】

新たな事業により観光客の呼び込みに期待している

村長

観光協会が道の駅に事務所を構えたことにより、情報発信力が格段に向上了。これに合わせ、新たな事業が企画・実施され、これまで以上に観光客を呼び込むことができるのではと期待をしている。DMOの

ここ数年の対応は、モニターツアー等の事業により、観光客受け入れ体制の準備が進んだ。地方創生を使つたDMO事業は今年度で終了となるが、来年度以降にあらためて応募するとのことであり、事業採択とならない場合には、関係市町村で協議することになっている。

2年連続して中止になつているが、山野草展示会は我が村において最大の集客力を持つイベントである。山野草を栽培している方の高齢化、継承者等の問題を考えたときに、道の駅周辺に常設展示できるビニールハウスやガラスハウスを設置する考えはないか。また、それを管理しながら、栽培技術を継承する協力隊を募集する考えはないか。

デジタルトランスフォーメーション時代に向けた専門職員の採用と教育環境の整備

村長

萩野議員

後継者がいないことは以前から懸念していた。道の駅周辺に山野草を展示できるハウス等の建設は何度も検討した。しかし、指導者の確保と技術が高度で、長い年数を要する。協力隊の任期は3年で、期間終了後に続けることができるかという課題がある。また、管理費や人件費の問題もあるが、DMOとの連携を続けていくつもりか。

村長は、村の観光発展をどのように考へているか。来年度から地方創生交付金もなくなるが、DMOとの連携を続けていくつもりか。

萩野議員 休眠状態だつた観光協会が再出発した。村を訪れた宿泊客は、コブ杉や天然杉、自動運転、白鳥などに興味をもつていた。私たちが日常、見慣れていた感覚とは違い、そうした視点からの誘客が可能と感じじる。

山野草愛好会の後継者対策について

萩野議員 コロナにより、



山野草展示会の様子(平成30年5月29日)

とに対応した専門の職員を採用する教育においても、ペーパーレス化が進み、令和6年度にはデジタル教科書の本格導入と聞いている。端末の更新の予算や計画など、今から考えなければならない。端末の考え方ではないか。

教育においても、ペーパーレス化が進み、令和6年度にはデジタル教科書の本格導入と聞いている。端末の更新の予算や計画など、今から考えなければならない。端末の考え方ではないか。

村長 自治体のDXは主に行政手続

きに係るものだと思う。これらは、町村電算システム共同事業組合で協議しており、計画は適期に策定したい。システムは町村共同組合で構築しており、必要に応じて職員研修で対応していく。

令和6年度からのデジタル教科書の本格導入は、今后の在り方等に関する検討会議の第一次報告で示されたものであり、方向性の一つであるが、デジタル化の課題もある。学校の端末は、令和7年度末の更新が望ましいが、国県の支援をお願いし、一般財源の削減に努めたい。

萩野議員 デジタル技術を浸透させることで生活を良いものに変革することをデジタルトランسفォーメーション(DX)と言っている。この分野は更なる発展が見込まれる。当村においても準備や計画が必要であると考える。今後、益々、デジタル化が推進していくこ

質問

米価下落に対する農家支援策は

村長



【齊藤鉄子議員】

令和4年産米に対する種子購入費等の補助を考えている

米価下落などに対する支援策は

齊藤議員 2021年産米は全国的に収入減少影響緩和対策、いわゆるナラシ対策の発動が予想されている。ナラシ対策に入っていると、ある程度は補てんされるが、前年からの収入減は避けられず、農家の経営は苦しくなる。秋田たかのす農協からも支援の要請があつたようだが、宮城県大崎市では10a当たり4千円を

支給し、生産意欲を下支えするとあつた。村では、種もみ購入の補助はあるが、その他の支援はできないか。

例えば、機械購入の補助

は他の市町村で行われてい

る。また、地域によつては、

独自の基準によるブランド

米があり、本村でも、農家

がまとまる可能性がある。

しかし、最初の立ち上げが

難しいので、村と農協が協

議して支援してはどうか。

支援することとなつてゐる。機械購入に対する補助は、できるだけ国や県の補助事業を活用していただきたい。市町村単独の補助は、あまり例がないが、他の市町村の事例等を収集し、農業以外の事業とのバランスも考慮し、村にふさわしい方法を考える。

村産のブランド米づくりは、他の地域との差別化により、付加価値を高めることがで、農家の所得向上に繋がるものと考えられる。

しかし、単純に名前をつけ

てパッケージを作ればいい

というものではなく、消費

されるので、農家自身

が品質管理、流通、販売ま

でを担う必要がある。ブラン

ンド化を進めようとする農

家を対象とした情報や研修

会等の支援を行う。

シシの農業被害が発生しているが、一昨年からイノシシの農業被害対策は猶友会に尽力していただいているが、困つてはいると聞いている。

被対策として、爆竹音を鳴らす対応や石油臭の利用、電気柵の利用などで努力している。電気柵は村の補助

があるが、急激に増え、対応

きれないないた

め、来年度に電

気柵の予算増額

を検討願いたい。

併せて、今はまだ被害地域が限られてはいるので、

被害の多い地区

の山と道路の境

に金網の設置の

検討ができない

村長

イノシシ被害については、今年度、急激に報告が増えてはいる。猶友会とも協議しているが、ワナによる捕獲が難しい。この他、広範囲でツキノワグマ、ア

ナグマ等の被害も寄せられ

ており、電気柵設置費用に掛かる費用を、来年度は増額させていただきたい。金

網の設置については、どの範囲で設置するのが効果的かは判断できないため、先進事例について情報を収集し、費用や効果を検討したい。

野生獣害対策について

齊藤議員 野生獣害対策は

猶友会に尽力していただいているが、一昨年からイノ

シシの農業被害が発生して

困つてはいると聞いている。

被対策として、爆竹音を

鳴らす対応や石油臭の利用、

電気柵の利用などで努力し

ている。電気柵は村の補助

があるが、急激に増え、対応

きれないないた

め、来年度に電

気柵の予算増額

を検討願いたい。

併せて、今はまだ被害地域が限

られてはいるので、

被害の多い地区

の山と道路の境

に金網の設置の

検討ができない

か。



イノシシに荒らされたと思われる水田の畦畔(仏社地区)

雄勝郡東成瀬村を訪ねて

自立を選択した本村においては、多くの課題に対処していかなければなりません。こうしたことから、他自治体の先進的な行政施策等を調査し、研修鑑を積み、議会の活性化を図るために、総務産業常任委員会による所管事務調査として、東成瀬村の取組を視察しました。



東成瀬村富田義行議長のあいさつ

研修レポート

河村 良満記

ダムの長さ（堤頂長）は755m、高さ114.5m。貯水量7850万m³とのことです。

この度の研修では、次の三つのことを勉強したいと考えておりました。

- ①成瀬ダム
- ②小・中学生の教育
- ③ふるさと納税

①の成瀬ダムは、本体工事の建設が1997年から始まり、2026年の完成を目指して工事が進められています。建設費用は230億円です。完成後の

この度の研修では、次の三つのことを勉強したいと考えておりました。
①成瀬ダム
②小・中学生の教育
③ふるさと納税



成瀬ダム建設現場の様子

の30年間、毎年村に入ります。完成後はダム本体や発電所、ダム事務所、職員住宅等の固定資産税が入ることになります。

私は、我が村も第2ダム建設を国へ要望すべきと考えています。

②の小・中学校の教育で

10年前から村営の学習塾を開設していることなど報告がありました。

近年、民間の学習塾のない町村の多くは直営の学習塾を開設しております。我が村でも開設できるよう、村へ強く要望していくたいと考えております。

③のふるさと納税はポータルサイト（申し込み窓口）数と返礼品の村内調達状況です。

ポータルサイト3社、返礼品は東成瀬村観光物産協会1社で100%、我が村はポータルサイト1社、返

あります。東成瀬村は毎年、全国学力テストで上位にランクされています。その理由を知りたいと思っておりました。

この度、教育長より話を伺いました。「小・中連携のもと、公開授業研究、グループ協議、全体協議、そして指導助言をサイクル化して実施している」ことや、

礼品は2社で、村外の秋田たかのす農協81・5%、かみこあに観光物産18・5%です。東成瀬村のように、ポータルサイト数の増設と、返礼品の村内調達率100%を目指して、村へ要望してまいります。

この度の東成瀬村訪問は

私にとって、今後の議員活動に大変有意義な研修でした。

東成瀬村鶴飼孝教育長の説明を聞く

東成瀬村は第2種兼業農家が多く、農家の高齢化が進み、作業委託が増えていることや農機具の更新等、金銭的な個人負担などの課題を解決するため、「東成瀬村過疎地域持続的発展計画」に基づき、ミニライスセンターを4地区に建設し、現在「滝ノ沢ファーム」「アグリード仙人」「岩井川ファーム」「手倉ファーム」の4農事組合法人に對し、指定管理委託（年間管理料66万円を村が支給）しているとの事でした。

農地があり、これら組合の経営面積は20ha規模で村の1／

村には約300haの

更には個人でも農作業の

村では農業振興対策として「仙人米」「なるせ赤べこ（短角牛）」「完熟トマト桃太郎」を「三大極上美味」品として全国に販売しているとの事で売り上げも伸びて来て、担当課では今後も関係機関と協議を重ね相互に連携し合いながら各法人の安定的な経営を支援していくと言うことでありました。

感想として東成瀬村さん

の農業方針は、今後の農業

は第2種兼業農家が多く、農家の高齢化が進み、作業委託が増えていることや農機具の更新等、金銭的な個人負担などの課題を解決するため、「東成瀬村過疎地域持続的発展計画」に基づき、ミニ

3を占め、地区の水稻収量は7俵～8俵／1反歩で4法人協議会を設け、村特産のブランド米として「仙人米（粒が2mm以上、食味値75以上）」を作り、販売しているとの事でした。

また法人の米は村内の宿泊施設や各種イベントの景品やふるさと納税の返礼品などにも使用され、村をあげて官民が一体となり村内における雇用の創出や地域の活性化において成果を上げているとの報告がありました。



村が建設した田子内ミニライスセンターを視察

後継者対策」と思われ、上

入にあつては、60パーセントの補助率・上限420万

円も制度化しているとの事でこれもまたビックリした次第です。

後継者対策」と思われ、上

小阿仁村も少しは見習つてもらいたいものです。

最後に富田議長さんにはお詫び申し上げると共に東成瀬村さんの益々の繁栄を心からお祈りいたします。

省力化に伴う農業機械の購入にあつては、60パーセントの補助率・上限420万円も制度化しているとの事でこれもまたビックリした次第です。

感想として東成瀬村さん

の農業方針は、今後の農業

今後の定例会日程予定表

区分	会議名	開催年月日	曜日	会期 (休会を除く日数)
3月定例会	議会運営委員会	令和4年2月22日	火	13日 (9日)
	開会	令和4年3月3日	木	
	閉会	令和4年3月15日	火	



県営大松川ダム

村議会と北秋田市議会で構成する小阿仁川水系対策委員会（佐藤真二委員長）が、横手市山内にある県営大松川ダムを視察しました。大松川ダムは雄物川水系横手川の洪水被害を軽減し、下流既得用水の補給など流水の正常な機能の維持を図るとともに、水道用水として横手市に供給し、かつ横手市金沢中野地区の農

議会の動き

小阿仁川水系対策委員会流況調査

11月11日(木)



ダム管理事務所職員から説明を受ける委員

第60回小阿仁川筋ダム対策連絡協議会

12月21日(火)

県と村、北秋田市、小阿

管理事務所の職員から、施設の概要、ダムの運用、下流域の河川状況について説明を受けました。

地に対してかんがい用水の供給を行います。また、県営大松川発電所において発電を行っているダムで、平成11年3月に完成しました。



小阿仁川筋ダム対策連絡協議会(生涯学習センター)

仁川水系対策委員会で構成する小阿仁川筋ダム対策連絡協議会（会長…田森清美県河川砂防課長）が開催されました。今年の萩形ダムの管理状況や、小阿仁川の整備状況、流況調査結果について意見交換しました。

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントが中止・延期になってしまい、「議会だより・みどり」もあまり明るい話題などを記載できなかつたと感じた一年であつたような気がします。今年は引き続きコロナ感染症対策に気を付けながら、楽しい・明るい・みなさんが興味を持つような話題を報告できたらいいなと思っております！

編集後記

編集委員

委員長
副委員長
委員
齊藤 佐藤
鉄子 真二
高義 満良 秀明

(伊藤 記)

